

1日も早い収束を 今こそ“文化・芸術の力”

滋賀ふるさと観光大使 **西川貴教さん**からのメッセージ

西川貴教さんは昨年、恒例の「イナズマロック フェス」を、滋賀県庁内の特設スタジオを拠点にオンラインで開催。コロナ禍の制約の中でも新たなことに挑戦し続ける西川さんに、メッセージを寄せていただきました。

逆境でも新たな挑戦を続ける

昨年はコロナ禍でツアーや舞台公演が次々に中止になりました。滋賀県で毎年開催している「イナズマロック フェス」は悩んだ末、ライブ配信を決定しました。本来は滋賀に来ていただいて魅力を知っていただくのが趣旨なので、残念ではありましたが、これまで紹介できなかった湖北や湖西の映像を観ていただいたり、滋賀の名産品の生産者を応援しようと、近江牛をオンラインで購入できるコーナーを設けたりしました。新型コロナウイルスの影響により、たくさんものを失った一方で、今できることを模索しながら、新しいことに挑戦し続けた1年でもありました。



©イナズマロック フェス 実行委員会

今も県民の皆さんには、新型コロナウイルスの影響で大きな苦労があると思いますが、一人ひとりの努力が、1日も早い感染症の収束につながります。私も、滋賀の魅力が県外の皆さんに伝えていけるよう頑張ります。

県のお祭りのようなフェスに

今年は「イナズマロック フェス」を例年通りに鳥丸半島で実現できることを願っています。そして、若いだけでなく、地元の中高年の方にも喜んでいただけるフェスにしていきたいと考えています。滋賀県のいいものを一カ所に集めて、みなさんに滋賀の魅力を知ってもらえる“県のお祭り”みたいなイベントにしたいです。

PRESENT

1月29日発売の西川貴教さんの写真集『西川貴教 五十而知天命 ～五十にして天命を知る～』（小学館）をプレゼント。滋賀県でロケを行い撮影したショットも満載です！



©小学館

※プレゼントの応募は15ページ「ほっとサロン」にて

西川 貴教さん

(アーティスト)

1970年、彦根市生まれ、野洲市育ち。

1996年、ソロプロジェクト「T.M.Revolution」としてデビュー。大ヒット曲を連発し、日本の音楽業界を牽引してきた。その活躍は音楽だけでなく、司会や声優・俳優など多岐にわたる活動を展開している。令和2年度滋賀県文化功労賞受賞。



©DIESEL Corporation

おくゆかしい滋賀の魅力

先日、大津市の近江神宮や浮御堂、米原市の青岸寺、長浜市の慶雲館で写真集の撮影を行いました。滋賀の寺社で感じるの、平安時代や鎌倉時代の建築や仏像を間近に見られることのすばらしさ。観光地のライトアップやガラスケースに並んだ仏像とは違って、滋賀県のお寺や神社は今も信仰の対象なんですよ。琵琶湖でのアクティビティなど、滋賀県にはまだまだ知られていない魅力がいっぱいあります。今は密を避ける旅行にも最適です。県民の皆さん、自信を持って滋賀と一緒に盛り上げていきましょう！

イナズマロック フェス

毎年9月に草津市の鳥丸半島で開催されている、西日本最大級の野外音楽イベント。西川貴教さんが発起人となり、「琵琶湖の環境保全と地域振興」をテーマに掲げて2009年から毎年開催されている。2021年は9月18日(土)・19日(日)の2日間開催を予定している。



2019年のイナズマロックフェスの様子 ©イナズマロックフェス 実行委員会

コロナ禍で
見つけた
新たな
可能性

びわ湖ホール 山中隆 館長インタビュー 「菊池寛賞」を受賞!

新型コロナウイルスのため、大規模な文化イベントに自粛要請が出された令和2年3月、びわ湖ホールはオペラ『神々の黄昏』を無観客で上演し、YouTubeにより無料のライブ配信を実施。世界30カ国約41万人が視聴した、この活動が評価されて「第68回菊池寛賞」を受賞しました。館長の山中隆さんに、緊迫の舞台裏、コロナ禍の中で見つけた新たな可能性、地元・滋賀への思いをうかがいました。



2020年3月7・8日に上演された『神々の黄昏』の7日のカーテンコール。出演者の「やり遂げた」という表情が印象的。



滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール
館長 山中 隆さん

公演直前に中止決定!? 緊迫の10日間

びわ湖ホールプロデュースオペラ『神々の黄昏』は、びわ湖ホールが毎年一作ずつ4年にわたって上演してきた超大作『ニーベルングの指環』4部作の完結編でした。

3月7日・8日の公演に向けて、1月下旬にはヨーロッパから演出家やキャストも来日して、立ち稽古を始めました。ところがコロナ感染の拡大で、オーケストラも加わって稽古が佳境に入った2月26日になって、政府の自粛要請が出たのです。

県が公演の中止を決定した28日、スタッフ・キャスト全員を大ホール集め、無観客で上演し、映像化することを提案しました。どういう反応があるかと思いましたが、全員から賛同の大きな拍手につつまれました。すぐに公演キャンセルの手続き、映像化の打ち合わせや手配などを大急ぎで進めました。当初は視野になかったネットでのライブ配信を決断し発表したのは、本番のわずか3日前でした。

キャスト・スタッフ一丸となつての 上演に大きな反響

キャスト・スタッフ全員で想定外の事態に対応して迎えた本番は、アーティストの思いがこもった、素晴らしい舞台になりました。

コロナ禍のこんな大変な時に——と、お叱りの言葉を覚悟しての上演でしたけれど、2日間のライブ配信には世界中から約41万のアクセスがあり、本当に多くの方にオペラをご覧いただきました。この配信を見た方から思いがけずネットでたくさんの寄付と温かいコメントをいただき、胸が熱くなりました。

地方の劇場がこれほど高いレベルのオペラを上演していることへの驚きの声も多く、びわ湖ホールの存在を全国の方に知ってもらおうきっかけになりました。

地方の劇場がこれほど高いレベルのオペラを上演していることへの驚きの声も多く、びわ湖ホールの存在を全国の方に知ってもらおうきっかけになりました。

ネット配信を拡充して 音楽の楽しみ方が広がる

今回の無観客上演で、閉塞感の中で音楽が求められていること、そしてホールの活動が滋賀県の皆様のご理解に支えられていることを改めて実感しました。

ホールでの公演と、専属の音楽アンサンブルが県内外各地に出向いての公演などの活動に加えて、ホールの第3のサービスとして、今後もネット配信を続けていきます。まずはホームページにアクセスして配信をぜひ一度ご覧ください。



びわ湖ホールには舞台技術などの専門職員がいる。11月の『マイア受難曲』より新しく機材を揃え有料配信を開始しました。

びわ湖ホール音楽アンサンブル



「びわ湖ホール音楽アンサンブル」は、日本初の公共ホール専属の音楽家集団。コロナ禍で公演は減りましたが、県内各地で小さな音楽会も開催しています。一流の歌声に触れる機会をぜひお楽しみください。

